

令和4年度（2022年度）第1回北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会 議事概要

1 日時及び場所

日時：令和4年（2022年）10月19日（水）10時00分から12時00分まで

場所：北海道教育庁石狩教育局会議室

2 出席者

<構成員：2名>

熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科 教授（座長に選出）

高瀬克範 北海道大学大学院文学研究院 教授

<北海道教育委員会：4名>

高見里佳課長、藤原秀樹課長補佐、ほか2名

<傍聴者：0名>

3 話題提供及び意見交換

<北海道東部の竪穴住居跡群調査第3次調査計画について>

事務局が第3次調査計画について説明した。

・竪穴群の保護を推進するため、第1次調査（平成27年度～29年度）・第2次調査（平成30年度～令和3年度）に引き続き、竪穴群の状況をさらに把握して資料を整備する必要があると判断されることから、第3次調査を行う。

・竪穴群現況調査では、道東・北部の竪穴群を対象に①GPS等を利用した竪穴の分布範囲の把握、②土地利用状況・所有状況の把握、③植物の生育状況、そのほか必要な情報を取得して個別の竪穴群の現況を把握して比較検討を行う。令和4年度は、浜頓別町の竪穴群を対象とする。

・測量・発掘調査では、適切な保護のために考古学的な基礎情報の把握が急がれる遺跡を選定し、詳細な調査を行う。この調査は、北海道立埋蔵文化財センターの指定管理者が指定管理業務（重要遺跡確認調査）として実施する。令和4年度は、興部豊野竪穴群（B）を対象に調査を行う。

<意見交換>

調査方法について

（熊木氏）

・近年、測量技術・機材が進歩している。費用の問題があるかもしれないが、遺構測量にそれらの技術の導入を検討しても良いかもしれない。遺構測量にはクマザサなど下草の影響があるため、測量の時期を考慮できると良い。

（高瀬氏）

・竪穴群の時期を特定することは、ひとつの課題と考えられる。期間・人員等が限られている調査で有効な方法と考えられるのは、各竪穴の中心付近で、検土杖を用いて焼土・炭化物等の試料を採取し、年代測定を多数行う方法である。これにより竪穴群の大まかな時期を把握することが可能と考えられる。

・過去に竪穴の窪みが見られたが、現在それらを確認することができなくなっている遺跡についても現況調査をおこない、その理由を検討することも重要と考える。竪穴について、過去と現在では認識に違いもあると思われるので、再調査により現況を確認することは必要と思われる。

（熊木氏・高瀬氏）：竪穴群現況調査の対象に、海岸沿いと内陸という対比があっても良いと考える。例えば、釧路川の中流域・上流域の標茶町の様相を把握することを検討しても良いかもしれない。

竪穴群の活用について

(熊木氏)：竪穴群の情報を集約できるような仕組みがあると良いと考える。例えば、道教委の「竪穴群ポータル」があるが、その内容をより充実させられると良いと考える。

(高瀬氏)

・北海道東部の竪穴住居跡群調査第3次調査計画では保存を目的とした調査に重点が置かれているが、竪穴群の活用について現時点で構想などがあれば聞かせてほしい。

・人々に竪穴群を積極的に見てもらい、現地で体感してもらおう機会を設け、文化資源として享受できるようになると良いと考える。

(事務局)

・北海道古代集落遺跡群保存活用協議会において、当課の調査成果等を報告し、また各市町村の取り組みを共有する機会を得たいと考えている。竪穴群の保存活用について市町村と連携して取り組めるように努めていきたい。

・重要遺跡確認調査では、現地説明会などにより調査成果を地元住民へ還元するようにしている。

・竪穴群が民有地に所在する場合もあるので、現地への案内には課題があると考えているが、地元の地域住民の中での活用方法があるかもしれない。